年　組　名前

道新でワークシート

まなぶ

卒業生 芸術分野で活躍

創立70年 おといねっぷ美術工芸高

真剣なまなざしで制作に励む、おといねっぷ美術工芸高の生徒

【音威子府】道内唯一の工芸科を持つ村立おといねっぷ美術工芸高が今年、創立70周年を迎えた。美術と工芸の2コースで専門的に学ぶ同校には、全国各地から生徒が集まり、実際の作品制作に多くの時間が当てられるのも特色だ。卒業生は美術・デザイン系の大学や専門学校に進学したり、近年は独立して創作活動を行うケースも増えている。

（和泉優大）

授業 作品制作に多くの時間

―トントン、ガガガッ―工具を駆使して生徒が木材を加工していく。北広島市出身で工芸コース3年のA さんは、戦闘機を模した木工と椅子づくりに励む。「入学時は知らなかった技術を身に付けることができた。独学では得られないものが学べます」。将来の目標は建築士という。

3年生は卒業制作の真っ最中だ。旭川市出身で美術コース3年のB さんは2枚の水彩画を制作。うち1枚は、女子高生が向き合って話す瞬間を明るく描いた。B さんは「自由でやりたいことができる高校」と笑顔を見せる。

同校は1950年、名寄農業高の分校として開設された。84年に工芸科へ転換、2002年に現校名に変更した。

美術や工芸の免許を持つ教員が指導を担当し、生徒は製図や素描、工具の使い方などの基礎を学ぶ。芸術分野に特化した高校は珍しく、在校生109人は全員が村外出身だ。うち25人は道外出身で、ほぼ全生徒が寮に暮らす。卒業生の総数は1760人を数える。

今春の卒業生の進路は、札幌市立大デザイン学部や多摩美大美術学部、大阪芸大芸術学部など。バイオリン製作者を目指して専門学校に進んだ人や家具メーカーに就職した生徒もいる。木工作家や絵本作家として独立、創作活動する卒業生も近年は目立ってきた。

「仲間と切磋琢磨したことが今につながっている」と話すC さん(26)は、卒業後にいったん村を離れたが17年に戻った。木材を使った装飾「象嵌」による虫や花などの立体作品は、内外から高く評価されている。

村地域おこし協力隊員のD さん(25)は「アクリルガッシュ」と呼ばれる水彩絵の具で作品を制作する。村を離れた卒業生も巻き込み、滞在しながら創作活動を行う「アーティストレジデンス」を企画するなど、美術交流の輪を広げている。

人口わずか700人の村にとって同校の存在は大きな活力となっている。高曽根誠教育長は「芸術分野を中心にあらゆる分野で活躍し、村の魅力を日本中に広げている。村民にとって誇りです」と胸を張る。

２０２０年11月２７日（金）朝刊　旭川・上川　旭川・上川１６P(記事は一部再編集しています)

①音威子府村の場所はどこですか。地図帳などで調べて、地図に書き込みなさい。

②在校生が語る高校の魅力を二つ書きなさい。

・

・

③高校はどのような存在であると書かれていますか。当てはまるものを二つ選びなさい。

ア　道内の工芸科の中では唯一、生徒が集まり活気のある存在。
イ　人口が少ない村にとって、大きな活力となる存在。
ウ　在校生に村民が多く、村民が誇りにしている存在。
エ　芸術分野などで活躍し、村の魅力を日本中に広げている存在。